

## 第4学年 国語科学習指導案

日時 令和5年6月16日(金)

子ども 4年 菊池学級 26名

指導者 菊池優佳

### I 単元名

### <授業の見どころ>

相手に届け！戦争という事実を通じた自分の思い  
中心学習材「一つの花」(光村図書4上)  
補助学習材「すみれ島」「さくら」他

出征の際にお父さんがゆみ子に渡した一つの花を、3人それぞれがどのように見つめていたのかについて、場面の移り変わり結び付けながら考えます。

### II 単元の指導構想

#### 1 単元について

- これまで子どもたちは、文学的な文章の学習において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、具体的に想像しながら作品を読んできている。「白いぼうし」の学習では、ファンタジー作品特有の「ふしぎ」をキーワードに、物語の展開を想像したり、各場面の登場人物の様子から性格や気持ちを思い描いたりしてきた。これらの学習を通して、少しずつ多様に想像を広げて読むことができるようになってきている。しかし、場面の移り変わりを意識できず、浅い読みをしてしまう子どもも見られる。今後は、これらの学びの文脈を生かし、登場人物の気持ちの変化が何によってもたらされたのかについて、場面の移り変わりを根拠としながら想像することができるような学習活動を行っていく必要がある。
- 本学習材は、戦争を題材として、厳しい時代を懸命に生きていく人々の姿が、ゆみ子とその家族を通して表現されている。戦争が激しさを増す時代で、「一つだけ。」「一つだけちょうだい。」が口ぐせとなったゆみ子、厳しい生活の中で一つだけしか与えることができない悲しみを味わいながらも、幼い我が子を懸命に育てる母親、そして、幼い我が子と妻を残して出征しなければならなかった父親の家族に対する深い愛情が、豊かな表現を通して描かれている。「戦争」というテーマ性が強い物語を通して、悲惨さ、残酷さだけではなく、登場人物の気持ちや行動から、子を思う親の愛情、命の重み、平和への祈りなど、様々な角度から自分の考えを得ることができる学習材である。設定した言語活動は、戦争という事実を通して考えたことを、発信することである。戦争の中を生きたくゆみ子たち家族の姿を通して考えた、「戦争はなぜ行ってはいけないのか」、「なぜ平和が求められているのか」などという問いに対する自分の答えを、伝える相手に合わせて内容や表現を変えたり、伝える際に用いる方法を工夫したりしながら表していく。
- 指導に当たっては、次の3点に留意する。

一点目は、追究する問いを明確にすること【手立て1】についてである。子どもたちは、既習の「ちいちゃんのかげおくり」や、今までに読んできた本やテレビで報じられる海外の戦争のニュースなどから、「戦争はいけないことである」、「戦争は人の命を奪う恐ろしいものである」、だから「平和が大切である」ということは概ね理解している。しかし、戦争というテーマを扱った多くの児童文学作者が残す「戦争があったという事実を語り継いでほしい」という願いを改めて提示されたとき、語り継ぐ内容について明確に表現できる子どもは少ないだろう。そこで本単元では、自分たちは何かを語り継いでいかなければならないという必要感の下、「戦争という事実を通して、何を伝えていけばよいのだろうか」という学習課題を設定し、「一つの花」を中心とした戦争の事実がわかる物語に触れることを通じて自分の考えを形成していく。漠然と理解していたことを、選んだ相手に合った表現方法を用いて伝えることで、自ずと問いに対する自身の答えも見つけられると考える。

#### 【手立て1 「学びの文脈」のデザイン】

二点目は、複線型の学習活動【手立て1】である。今回は、二つの複線を取り入れる。一つ目は、言語活動の複線化である。「戦争という事実を通して伝えたいこと」というテーマは同じだが、考えを伝える相手や表現方法についてはそれぞれが選ぶ。それにより、自分が伝えたい相手にとって必要な情報は何か、誰と誰、何と何を結び付けて考えることで、より自分の思いや考えが伝わるのか、そのための有効な表現方法は何であるのかなど、常に必要感をもって物語を読むことができるようになる。二つ目は、並行読書の扱いである。「一つの花」を読んで考えたことを基にして、自分の考えを形成するだけではなく、他の戦争に関わる作品から得たことを、「一つの花」を読んで考えたことと比較したり、考えを付け加えたりすることによって、自分の思いをより分かりやすく表現する子どももいるに違いない。本を手にとることができる環境を整え、自由に読んだり学習に用いたりすることができるようにしていく。

#### 【手立て1 「学びの文脈」のデザイン】

三点目は、思考が深まる学習活動【手立て2】についてである。友達と考えを交流することを通じて、困っていることを解決したり、再思考して考えを深めたり、必要だと思う情報を比較し、取捨選択したりすることができるようにする。また、その機会を教師から提示するだけではなく、子どもたち自身が判断し設定することで、必要感をもって交流ができるようにしていきたい。

#### 【手立て2 よりよく学ぶ3つの視点】

## 2 単元構想図

### 単元の目標

- 様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，語彙を豊かにすることができる。  
【知識及び技能】(1) オ
- ◎ 登場人物の気持ちの変化について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。  
【思考力，判断力，表現力等】C (1) エ
- 文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつことができる。  
【思考力，判断力，表現力等】C (1) オ
- 言葉がもつよさに気付くとともに，幅広く読書をし，国語を大切に，思いや考えを伝え合おうとする。  
「学びに向かう力，人間性等」

### 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 登場人物の様子や行動，性格や気持ちを表す語句の量を増し，語彙を豊かにしている。 (1) オ	① 「読むこと」において，登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。 C (1) エ ② 「読むこと」において文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもっている。 C (1) オ	① 進んで，登場人物の気持ちの変化について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し，学習課題に沿って，自分の考えをもとうとしている。

#### 復興教育との関連

- **いきる「①かけがえのない生命」**  
戦争の悲惨さと懸命に生きようとする人々の姿の両面に触れることを通して，命の大切さについて感じることができるようにする。
- **かかわる「⑧家族とのきずな」**  
困難な状況においても，我が子の幸せを考える親の気持ちに気付くことができるようにする。

資質能力の高まり

#### 他教科・領域，等

算数 6月「角の大きさや表し方を調べよう」  
180°よりも大きい角の表し方について，複数の方法を共有することを通して，他者の考えに触れ，自分の考えと比較し，よりよい考えを求める。

総合 1学期  
「地域のよさとそれを大切にしようとする人々」  
・意図に応じて，情報を収集したり必要な情報を選んだりすることを通して，考えを形成し，発信する。

教科の学習内容

3年 10月  
「ちいちゃんのかげおくり」  
場面を比べて読み，感想をもつ。

4年 4月  
「白いぼうし」  
場面どうしをつなげて読み，感想をもつ。

本単元 4年 6月  
**相手に届け！戦争という事実を通した自分の思い**  
中心学習材：「一つの花」  
補助学習材：「すみれ島」他  
言語活動：戦争という事実を通して抱いた自分の思いを発信する。

4年 9月  
「ごんぎつね」  
場面の展開に沿って人物の気持ちの変化の理由について自分の考えをもつ。

4年 12月  
「プラタナスの木」  
場面の移り変わりと結び付けながら，登場人物の気持ちの変化を捉える。

#### 他教科・領域等

社会 「わたしたちの暮らしと健康」  
・ ごみの減量や循環型社会の大切さについて考えることを通して，自分の考えをもつ。

国語 「アップとルーズで伝える」  
・ 学習課題に沿って，相手意識をもって自分の考えを伝える。

#### 見方・考え方を働かせるポイント

- 繰り返して使われている表現  
作者が作中で意図的に使った繰り返す言葉から，何が強調されているのかを想像することを通して，作者の意図を探っていく。
- 場面の移り変わりと結び付ける  
それぞれの登場人物の境遇や状況を把握し，物語全体に描かれた行動や会話に関わる複数の叙述を結び付けて読んでいく。

#### 願い

- ・ 学習を通して付ける力を，しっかりと身に付けたい。
- ・ 想像したり理解したりしたことを基に，自分の考えをもてるようになりたい。

#### 教科の力

- 叙述を基に，登場人物の行動や気持ちを想像することができる子どもが多い。
- 想像したことや理解したことを根拠に，自分の考えをもつことに苦手意識をもつ子どもがいる。

子どもの実態

### 3 単元の指導及び評価の計画（全9時間）

次	時	○学習活動	◆研究の手立て	評価規準 評価方法		
1	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「ちいちゃんのかげおくり」の学習を振り返り、戦争について知っていることや学んだことを振り返る。</li> <li>○ 戦争を題材とした物語を書いた様々な作者のあとがきを紹介する。</li> <li>○ 「一つの花」を読み、感想をもつ。</li> <li>○ 単元の学習課題を設定する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">戦争という事実を通して、何を伝えていけばよいのだろうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 誰に、どのような方法で伝えるのかを考える。</li> </ul>	並 行 読 書	<b>【手立て1 問いを追究する複線型の単元構想】</b> ◆ 戦争を題材とした物語を書いた作者のあとがきから、戦争や平和に対する見方や考え方を広げるきっかけをつくる。 ◆ 自分の考えを分かりやすく伝えるためには、誰にどのような方法で伝えることが適しているのかを考え、学習のゴールを具体的にイメージできるようにする。		
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ あらすじを基に物語を3つに分け、時代や人物などの設定を確かめる。</li> <li>○ 初発の感想を交流し、解決していきたい問いを見付ける。</li> <li>○ 全体で考えていきたい問いを立てる。</li> </ul>		<b>【手立て1 問いを追究する複線型の単元構想】</b> ◆ 個が見付けた問いを、比較・検討し、全体で考えていく問いにする。	<b>【知識・技能①】</b> 発言・記述 ・登場人物の様子や行動、性格や気持ちを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしているかの確認。	
	2	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 繰り返し出てくる「一つだけ」という表現に着目して読む。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">ゆみ子、お母さん、お父さんが用いる「一つだけ」は、同じ意味なのだろうか。</div>	<b>【手立て2 思考が深まる学習活動】</b> ◆ 父親が表す「一つだけ」には、食べ物だけではなく、ゆみ子の幸せや将来に対するものであることに気付くことを通して、親の愛情や戦争に対する怒りを想像できるようにする。	<b>【思考・判断・表現①】</b> 個別ワークシート・発言 ・ゆみ子や母親、父親の気持ちや行動の理由について、場面の移り変わりと結び付けながら具体的に想像しているかの確認。
		4		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 戦争に行く場面の、ゆみ子、母親、父親の気持ちを考える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">3人は、一つの花をどのような気持ちで見つめていたのだろうか。</div>	<b>【手立て2 思考が深まる学習活動】</b> ◆ どうとう泣き出したゆみ子をきっかけに、登場人物の気持ちの変化や行動の理由について想像し、3人それぞれにとっての「一つの花」の意味を考える。	<b>【知識・技能①】</b> 発言・記述 ・登場人物の様子や行動、性格や気持ちを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしているかの確認。
		5		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 戦時中と戦後の生活の様子を比べて、違いに気付くことを通して、平和について考える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">10年後のゆみ子とお母さんの生活から、平和を読み取れるのだろうか。</div>	<b>【手立て2 思考が深まる学習活動】</b> ◆ 10年後のゆみ子と母親の姿から、平和とは具体的にどのようなことなのかを考える。	
3	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「一つの花」の物語を通して、自分が感じたことや考えたことをまとめる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">戦争という事実を通して、何を伝えていけばよいのだろうか。</div>	<b>【手立て1 問いを追究する複線型の単元構想】</b> ◆ 読み取ってきたことと並行読書をして身に付けた知識を基に、単元の問いを追究する。	<b>【思考・判断・表現②】</b> 個人で選んだ表現方法・発言 ・作品を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっているかの確認。		
	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の思いや考えを、相手を意識した表現を用いて表す。</li> </ul>	<b>【手立て1 問いを追究する複線型の単元構想】</b> ◆ 自分が選んだ相手を意識することにより、選ぶ出来事や用いる表現を工夫する。	<b>【主体的に学習に取り組む態度①】</b> 観察 ・課題に沿って、学んできたことや他の作品を振り返りながら、戦争や平和に対する自分の考えを表現しようとしているかの確認。		
	8	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">伝える相手を意識しながら、自分の考えをまとめよう。</div>	<b>【手立て2 思考が深まる学習活動】</b> ◆ 自分が一番に伝えたいことを、「一つの花」や並行読書に出てくる登場人物の姿と関連付けて表現する。	<b>【思考・判断・表現②】</b> 個人で選んだ表現方法 ・作品を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもち、選んだ方法に合わせて表現しているかの確認。		
	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元の振り返りをする。</li> </ul>	<b>【手立て1 問いを追究する複線型の単元構想】</b> ◆ 第1時との考えの変容に気付き、学びを実感するようにする。	<b>【主体的に学習に取り組む態度①】</b> 観察 ・自分や友達が表現したものを振り返り、学習課題に対する答えを明確にしようとしているかの確認。		

### Ⅲ 本時の指導

#### 1 目標

一つの花を受け取ったゆみ子、それを見つめる母親、父親の気持ちについて、場面の移り変わり結び付けながら考えることができる。

#### 2 評価規準

##### 【思考・判断・表現】

3人の一つの花に対する思いを、登場人物同士の関わりや場面の移り変わり結び付けながら想像し、友達との伝え合いを通して、考えを深めることができる。

##### <努力を要する状況の児童への手立て>

なぜお父さんが、ゆみ子ではなく一つの花を見つめたのかの理由について、自分の経験と照らし合わせながら考えられるようにする。

#### 3 展開 (4/9時)

段階	学習活動 ○発問	時間	◆研究にかかわる手立て ・予想される子どもの反応	・留意点 評価
導入	<b>1 前時想起</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時を振り返り、戦争の時代を生きる3人の「一つだけ」に込められている気持ちを想起する。</li> <li>いよいよ家族が離れ離れになることを確かめる。</li> </ul> <b>2 課題の設定</b> <p>3人は、どのような気持ちで一つの花を見つめていたのだろうか。</p>	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>お腹いっぱい食べたいのに、かわいそうだったな。</li> <li>お母さんは、自分の分からゆみ子に分けてあげていて、優しい人だと思った。</li> <li>お父さんは、ゆみ子の成長や将来のことまで考えていたことが分かったな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>父親の「一つだけ」には、ゆみ子の将来に対する気持ちが込められていたことを掲示とともに確かめる。</li> </ul>
展開	<b>3 課題の解決の見通し</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>何に注目して読んでいくのかを確かめる。</li> </ul> <b>4 学習課題を解決する</b> <p>(1) 戦争へ行く日の家族の様子を捉える。</p> <p>(2) 一つの花を見つめる家族の気持ちを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人で考える。</li> <li>友達と相談する。</li> <li>友達に相談し、解決したことを基に、再度一人で考える。</li> </ul>	3 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>会話文</li> <li>行動</li> <li>地の文</li> <li>前後の場面</li> </ul> <b>手立て2</b> <b>【思考が深まる学習活動】</b> ◆今の自分に必要な学び方を判断し、実践することを通して、分からないことを解決したり、考えを深めたりすることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>読みの手掛かりになるように、読むための視点を掲示する。</li> <li>「戦争に行く」ということがどれだけ家族にとって辛いことなのかを理解するために、汽車が入ってくるまでの家族の気持ちを押さえる。</li> </ul>
	<p>・ゆみ子は、お父さんから花をもらってうれしかったと思う。</p> <p>・お母さんは、お父さんの代わりに花だと思って、大切にしようと思ったと思う。</p> <p>・お父さんは、自分はいなくなるけれど、自分の分まで生きてほしいという思いを込めたのだと思う。</p> <p>(3) 読み深め合い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>考えを全体で共有する。</li> </ul> <p>○ 3人は、どのような気持ちで一つの花を見つめていたと思いますか。</p> <p><b>思考が深まる学習場面</b></p> <p>○ お父さんは、どうして高い高いではなく一つの花をあげたのでしょうか。</p> <p>○ ゆみ子を喜ばせたいのであれば、たくさんのコスモスをあげればよかったのではないのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本当に最後の別れだと思ったから、ゆみ子に何かを残してあげたかったのだと思う。</li> <li>その時は泣き止んでも、またすぐに泣いてしまうかもしれない。泣くゆみ子を見るのが嫌だったんじゃないかな。</li> <li>一つだけだけど、満足できる子になってもらいたかったからだと思う。</li> <li>一つのことを大切に育ててもらいたかったのかな。</li> <li>ゆみ子の口ぐせの「一つだけちょうだい。」に応えたかったと思う。</li> </ul>	<p><b>【思考・判断・表現】</b> ノート・ワークシート・発言</p> <p>「一つの花」に対するそれぞれの気持ちを、場面の移り変わり結び付けながら具体的に想像している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一つ目の場面の行動と比較することを通して、一生の別れを前に、父親がゆみ子に対してどのようなことを考えていたのかを想像しやすくする。</li> <li>群生するコスモスの資料を提示し、父親が「一つ」に込めた思いを考えられるようにする。</li> </ul>	
終末	<b>5 振り返り</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学びを振り返り、個人で選んだ表現方法にまとめる。</li> </ul> <b>6 次時の学習の見通し</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>10年後のゆみ子と母親の生活について考えることを見通す。</li> </ul>	6	<p><b>期待する子どもの振り返り例</b></p> <p>ゆみ子を喜ばせるために一つの花をあげたのだと思っていただけ、そこにはお父さんの願いが込められていることが分かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時を通して分かったことや気付いたことを共有し、学びの深まりを実感できるようにする。</li> </ul>

